

1 再帰代名詞

文の主語と同じものを表す代名詞があります。簡単にいえば、日本語の「自分に、自分を」に相当する表現です。

これは主語を目的語とする文などに使われる表現で、再帰代名詞よばれるものです。

鏡の前に立ち、「私は私を見る」という場合の「私を」に相当する語です。

ドイツ語では Ich sehe **mich**. といいいます。

「君は自分を見る」は Du siehst **dich**. となります。

1、2 人称では**人称代名詞**が再帰代名詞として使われます。

しかし、3 人称では事情が異なります。

Er sieht **ihn**. は「彼は自分を見る」の意味にはならず、「彼は（自分とは異なる）彼を見る」の意味になってしまうからです。

そのために、3 人称と敬称 2 人称では **sich** という語が再帰代名詞として使われます。

「彼は自分を見る」は Er sieht **sich**. となります。

再帰代名詞は 3 格と 4 格しかなく、次のように格変化します。

	3 格	4 格
ich	mir	mich
du	dir	dich
er/sie/es	sich	sich
wir	uns	uns
ihr	euch	euch
sie	sich	sich
Sie	sich	sich

Ich sehe **mich**. (再帰代名詞) (私は自分を見る)

Du siehst **mich**. (人称代名詞) (君は私を見る)

Er spricht von **ihn**. (人称代名詞) (彼は彼について語る)

Er spricht von **sich**. (再帰代名詞) (彼は自分について語る)

2 再帰動詞

再帰代名詞と結びつきが強く、再帰代名詞を目的語とする動詞があり、再帰動詞とよばれます。

しかし、再帰動詞の用法しかない純粋な再帰動詞はごく少数で、ほとんどの再帰動詞は普通の動詞が再帰代名詞を目的語にとり、再帰的に使われたものです。

再帰動詞には3格の再帰代名詞をとるもの(少数)と4格の再帰代名詞をとるものがあります。

主語が変わるとそれに応じて再帰代名詞も変化することを忘れないようにしましょう。

sich(4) erkälten (「風邪をひく」の現在完了形)

主語		再帰代名詞	
Ich	habe	mich	erkäl tet
Du	hast	dich	erkäl tet
Er	hat	sich	erkäl tet
Wir	haben	uns	erkäl tet
Ihr	habt	euch	erkäl tet
Sie	haben	sich	erkäl tet

1) 4格の再帰代名詞をとるもの

4格の目的語をとる他動詞が再帰代名詞を目的語にとり、再帰動詞として使われた場合、次のように動詞の意味が変化します。

(1) 他動詞が自動詞的になります

Ich setze **das Kind** auf die Bank. (私はその子をベンチに座らせる) (他動詞)

Ich **setzte mich** auf den Stuhl. (私は椅子に座る) (再帰動詞)

Das freut **mich**. (それは私を喜ばせる[それはありがたい]) (他動詞)

Ich **freue mich** auf die Winterferien. (私は冬休みを楽しみにしている) (再帰動詞)

(2) 受動的もしくは自動的になります

Die Tür **öffnet sich**. (ドアが開く)

(3) 相互代名詞としても用いられます(主語が複数の場合)

Wir verstehen **uns** gut. (わたしたちは良く理解しあっている)

Sie helfen **sich**. (彼らは互いに助け合う)

2) 3格の再帰代名詞をとるもの

Das **bildest** du **dir** nur **ein**. (君がそう思い込んでいるにすぎない) (**sich**³ **et**⁴. einbilden)

Ich kann **mir** **so etwas** nicht **vorstellen**. (そんなことはわたしには想像できない)
(**sich**³ **et**⁴. vorstellen)

次の動詞も3格の再帰代名詞とともに用いられ、良く使われる表現です。

この **sich** は「誰の(手、顔、歯、髪)」を表し、「所有の3格」といわれるものです。

Ich **wasche** **mir** die Hände(das Gesicht, die Haare). (私は<自分の>手(顔、髪)を洗う)

Du **putzt** **dir** die Zähne. (君は歯を磨く)

3) 再帰動詞の用法しかない動詞もあります

Hast du **dich erkältet**? (風邪をひいたのかい)

sich⁴ **beeilen**: 「急ぐ」

sich⁴ **verspäten**: 「遅れる」

4) 特定の前置詞と結びつく再帰動詞もあります

sich⁴ **an et.**⁴ **gewöhnen**: 「～に慣れる」

Er kann **sich** nicht **an** das Essen **gewöhnen**. (彼は食事に慣れることができない)

sich⁴ **für et.**⁴ **interessieren**: 「～に興味がある」

Interessieren Sie **sich für** Jazz? 「あなたはジャズに興味がありますか」

sich⁴ **auf et.**⁴ **freuen**: 「～(未来のこと)を楽しみにしている」

Freust du **dich auf** die Reise? 「旅行を楽しみにしていますか」

sich über et.⁴ **freuen**: 「(現実のこと)を喜ぶ」

Wir **freuen uns über** deinen Erfolg. 「わたしたちは君の成功に喜んでいる」

5) また 4) の用法は前置詞と人称代名詞・疑問詞の融合形と使われることが多くみられます。

a) 前置詞と人称代名詞の融合形

人称代名詞が<人>ではなく、<事物>を指し、[前置詞](#)と共に使われるとき、多くは da + 前置詞(前置詞が母音で始まる時は、dar + 前置詞) になります。

Warten Sie **auf** den Bus? Ja, ich warte **darauf**. (バスを待っているのですか。 ええ、バスを待っています)

Warten Sie **auf Ihre Frau**? Ja, ich warte **auf sie**. (奥様をお待ちですか。 ええ、妻を待っています)

b) 疑問代名詞 **was** が前置詞とともに用いられるときは、「**wo[r] + 前置詞**」の形になります。

Woran denkst du? Denkst du **an den Urlaub**? (何を考えているの。 休暇のことを考えているの)

An wen denkst du? Denkst du **an deine Freundin**? (誰のことを考えているの。 ガールフレンドのことを考えているの)

c) 再帰動詞とともに

Ich ärgere mich **darüber**. (私はそのことに腹を立てている)

Wofür interessieren Sie sich? Ich interessiere mich **für** den Umweltschutz. (何に関心をお持ちですか。 私は環境保護に関心をもっています)

2. 非人称動詞

ドイツ語の動詞が**人称変化**することは既に学びました。しかし、人称変化というものを考えることができない動詞があります。

例えば、**regnen** (雨がふる), **schneien** (雪がふる) です。 **ich regne, du regnest** といった表現はありません。

こうした動詞には形式的な主語"**es**"を用い、3人称の**代名詞**"**es**"と区別して、非人称の「**es**」とよばれます。

また、非人称の"**es**"とともに用いられる動詞は非人称動詞とよばれます。

1) 天候・日時など

Es regnet. (雨がふる)

Es donnert. (雷がなる)

Wie spät ist **es**? - **Es** ist zehn Uhr. (何時ですか。 10時です)

Es ist heute Sonntag. (今日は日曜日です)

2) 生理的・心理的感覚

Es ist mir **übel**. / Mir ist **übel**. (気分が悪い)

Es ist mir kalt. / Mir ist kalt. (私は寒い)

* 意味上の主語は3, 4格で示され、"es"は文頭に置かれる以外は省略されます。

3) 熟語

(1) **es gibt** + 4格: 「～がある」

In dieser Stadt **gibt es** viele Universitäten. (この都市には多くの大学があります)

(2) **es geht** + 3格: 「……の調子は～である」

Wie **geht es** Ihnen? - Danke, es geht mir gut. 「お元気ですか」 - 「ありがとう、元気です」

(3) **es handelt sich um** + 4格: 「～が問題である」

Es handelt sich um die Zukunft unserer Firma. (私たちの会社の将来にかかわることだ)

3. 不定詞

主語の影響を受けて人称変化し、また時制の影響を受けて変化する動詞は**定動詞**とよばれます。

これに対して主語や時制の影響を受けない動詞、つまり動詞の原形、は**不定詞**とよばれます。

不定詞には zu のつく不定詞と zu のない不定詞があります。

zu のつかない不定詞は[話法の助動詞](#)や [werden](#) などと使われます。

Darf man hier **parken**? (ここに車を停めることは許されていますか) [zu のない不定詞]

Er fährt in die USA, um dort Medizin **zu studieren**. (医学を研究するために彼はアメリカ合衆国へ行く) [zu のつく不定詞]

1) zu のない不定詞の用法

・werden とともに用いられて未来形を作り、また話法の助動詞とともに用いられます。

Meine Eltern **werden** nächste Woche **verreisen**. (私の両親は来週旅に出る)

・頭文字を大文字書きして中性名詞(複数形なし)として用いられます。

Er geht zum **Essen** in die Mensa. (彼は食事をするために学食へ行く)

2) zu のつく不定詞の用法

(1) zu の位置と zu 不定詞句の語順

・ 分離動詞の場合は前綴りと動詞本体の間に zu が置かれ、一語で書かれますが、それ以外は zu と不定詞は分けて書かれます

schwimmen -> zu schwimmen / aufstehen -> auf**zu**stehen

・ zu 不定詞句の語順は日本語と同じ語順になり、zu 不定詞句の最後に zu 不定詞がきます

ausländische Briefmarken **zu sammeln** (外国の切手を集めること)

(2) zu 不定詞の用法

[1] 主語として用いられます

Ausländische Briefmarken **zu sammeln** ist sein Hobby. (外国の切手を集めることが彼の趣味です)

Es ist sein Hobby, ausländische Briefmarken **zu sammeln**.

主語としての zu 不定詞句は重苦しい感じになりますので、「es」を形式的な主語として文頭におき、zu 不定詞句は文末におかれることが多い

zu 不定詞句は原則としてコンマで他の部分と区切られます。ただし、zu 不定詞単独の場合は区切られません。

[2] 動詞の目的語として用いられます

Hast du heute Abend schon etwas vor? (今晚もう何か予定していますか)

Ich **habe vor**, ins Kino **zu gehen**. (映画を観に行く予定です)

Er freut sich schon **darauf**, sie wieder zu sehen. (彼は彼女に再会することを楽しみにしている)

前置詞句が目的語になる場合には、「da(dar)」 + 前置詞になります。

[3] 名詞の付加語として用いられます

Hast du **Lust**, mit mir Tennis **zu spielen**? (僕と一緒にテニスをする気はありませんか)

Ich habe keine **Zeit**, ins Konzert **zu gehen**. (コンサートへ行く暇がない)

[4] 形容詞の付加語として用いられます

Bist du schon **bereit zu gehen**? (もう出かける準備はできましたか)

[5] **um/ohne/statt + zu 不定詞**

・ [um + zu 不定詞 : 「～するために」]

Er fährt nach England, **um** dort Englisch **zu lernen**. (彼は英語を学ぶために英国へ行く)

・ [ohne + zu 不定詞 : 「～することなしに」]

Er ging weg, **ohne zu grüßen**. (挨拶もしないで彼は立ち去った)

ging: gehen の[過去形](#)（第13課参照）

・[statt(anstatt) + zu 不定詞：「～する代わりに」]

Sie rief mich an, **statt** mir **zu** schreiben.（彼女は手紙を書くかわりに私に電話をした）

rief an: anrufen の[過去形](#)（第13課参照）

[6] その他の用法：（これらの用法ではコンマはつきません）

・haben + zu 不定詞：「……しなければならない」

Heute **habe** ich viel **zu** tun.（今日はしなければならないことがたくさんある）

・brauchen + zu 不定詞：「……を必要とする」（否定詞とともに「……する必要はない」）

Sie **braucht** heute **nicht zu** arbeiten.（彼女は今日は仕事をする必要はない）

・scheinen + zu 不定詞：「……のように思われる」

Unsere Kinder **scheinen** müde **zu** sein.（私たちの子供たちは疲れているように思われる）

・sein + zu 不定詞：「……されうる、されなければならない」

Das Buch **ist** leicht **zu** lesen.（その本は簡単に読める）

Die Miete **ist** jeweils im Voraus **zu** zahlen.（家賃はその都度前もって支払われなければならない）